

平成26年度第3回旭市道の駅建設準備委員会 会議録

日 時：平成26年6月27日（金）午後3時00分

場 所：市役所3階委員会室

事務局：企画政策課

外部アドバイザー：(株)船井総合研究所

1. 開会

代理出席（高木委員代理：農水産課、川口副課長）報告

欠席（菅生委員）報告

2. あいさつ

委員長：大変お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。皆様方の慎重審議のほどよろしく申し上げます。

市長：大変お忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。

先程、旭市道の駅第3セクター設立発起人会協定調印式が構成団体の協力の下、滞りなく終了し、運営組織の設立に向けてスタートしました。運営について第3セクター方式に決定した経緯は、地元農水産物のPRや、地域振興を目的としたイベントの開催など、地域性を重視するにあたり、柔軟かつ効果的に運営できる可能性が高いという事から第3セクター方式に決定しました。

前回の会議ではレストランの運営方針について再検討があり、委員の皆様から様々な意見が出ました。地元の農業高校開発のメニューも入れてはどうかといった話もありました。皆様には今後ともご協力をお願いしたいと思います。

これからオープンまでなお一層の努力が必要になりますが、まず一番大事なことは、直売所の出荷者について如何に多くの方を集められるかだと考えています。事務局、役所内のプロジェクトチーム、或いは委員の皆様も、是非多くの方に呼びかけをしていただきたいと思います。

すばらしい道の駅にするためには、他の道の駅との差別化、特徴を出すことが成功の鍵となると思います。本日も重要案件が続きますが慎重審議をよろしく申し上げます。

3. 議題【道の駅運営に向けた検討項目】

(1) 発起人会調印式の報告について

※事務局より説明

・発起人会調印式の報告について

→本日、午後2時より出資を構成する10団体の出席により開催され、発起人会が設立された。今後、平成27年4月の株式会社設立に向けて協議をしていく。

(2) 出荷者応募状況及び加工品出荷者説明会について

※事務局より説明

・農水産物出荷者応募状況について説明

→現在の申込み者は25名である。今後、農水産課と協力して一層の周知を進める。
また、説明会質問事項に対する回答の方向性(案)について説明。

各委員からの意見

委員：山菜等を出荷する場合で、市内在住の方が山菜等を採取する山林を市外に所有する場合は手数料については市外扱いになるのか。

事務局：市内に在住する方であれば、市外の圃場や山林の生産物であっても、手数料については市内の扱いでよいのではないかと。

委員：只今の質問に関連するが、市外で採取された物は産地は市外になるのか。

事務局：市内産の考え方について、出荷者の方から直接聞かれてしまうと、市外産の物を市内産として良いとは非常に言い難い。ただ、市内産しか扱わないような厳密なルールにしてしまうと出荷のハードルが高くなってしまいますので、最終的には出荷者が市内在住であれば市外産も認めるという案である。

市長：商品に産地を明記するのか。生産者名だけで良いのではないかと。

事務局：産地表示については、これから第3セクターで決めていくことになる。市内と市外で手数料の違いがあるので、その扱いの方向性を決めたい。

委員：基本的には個人の方の出荷になるので、市内在住や市内産といった所にこだわってもらうのは賛成である。それぞれの商品に生産者を明記したらどうか。

委員：産地表示については近隣の道の駅の状況を聞いてみてはどうか。

委員：JAちばみどりは旭市のみで構成している団体ではないが、組合員の出荷についての扱いはどうなるのか。

委員：JAは出資者であるので、十分な協議のうえ柔軟な対応をお願いしたい。

委員：現在で25名の申込みは少ない。その中に水産関係が入っていない。前から鮮魚関係を扱うのは難しいと聞いているが、特徴ある道の駅にしたいという中で、鮮魚関係はあった方が良くと思う。漁協との関係等、難しいのは分かるが、漁師に直接出してもらうことはできないか。テレビでも鮮魚を扱う道の駅は見たことがある。最初から無理とせずに働きかけてもらいたい。

委員：漁師は殆どが個々で仕事をしているので、出荷までするのは難しい。できれば漁協を通してもらい、漁協から道の駅に出荷する体制をつくりたい。定期的な朝市だけでも、その日に獲れた魚を並べたい。

委員：水産関係の扱いには賛成である。出荷者の申込みが少ないのは、直売への不安等の原因があると思う。手続きが面倒なのか、持っていくことが面倒なのか、何か原因があるのではないかと。消費者は道の駅に行っても何も品物が無ければ、近くのスーパーに行ってしまうのではないかと心配である。

市長：出荷者の応募について、まだ周知が徹底されていない。市民に理解されていないか

ら、説明会参加者も申込者も少ない。その辺の努力は行政だけではなく委員の皆さんにもしてもらいたい。出荷者集めについて、これからどういう努力をしていくのかを議論することが大事である。

委員長：現実には、みどりの大地で農協がやっているような体制があれば、道の駅にも出荷できるという人が多いが、各組織の末端まで情報が流れていない。野菜類の分野については農水産課にもっと真剣に取り組んでももらいたい。

委員：直売館では現在、8名の方の集荷をしている。高齢者の方が自分で運転できない等の理由である。そういう方のために出来れば集荷も考えてもらいたい。

委員長：みどりの大地にJAを通して出荷している方は、道の駅でも集荷をしないと出さないと思う。

委員：出荷者は何名ほどを想定しているのか。

事務局：開業当初は150名ほどを想定し、将来的には300名ほど集めたい。

委員：部門別の人数の内訳はあるのか。

事務局：野菜が多数で7割から8割くらいである。

委員：分類別にどれくらいの出荷者を集めたいのかといった計画があっても良いと思う。その内訳によって何がどれくらい足りないのかを示してもらわないと、各委員もどう協力すれば良いのか分からないと思う。

事務局：スーパー等は最初に何をどれくらい売るかといった販売計画を立てると思うが、道の駅の場合はとりあえず、野菜等を集めるだけ集めて、それからどう売っていくかと順序が逆になる部分がある。また、集荷の話だが、やはり近隣の道の駅でも高齢化の問題があるようである。最初から集荷ありきで募集してしまうと、道の駅側の負担が増えてしまうので、まずは通常の持ち込みの出荷者を募集させていただき、状況を把握してから、集荷の検討も必要ではないかと思っている。

市長：委員の皆さんに協力してもらうには、例えば野菜の分野ごとにどれくらいの出荷者が必要なのか、配置も想定しながら数を出さないと協力も難しい。具体的な数字で進めていく時期である。

アドバイザー：150名の目標の中で、部門別の必要人数を早急に割り出したい。出荷者については応募が少ないが、まずは、とにかく周知徹底をして集められるだけ集めてみることである。150名の出荷者を集めた場合の売上は、おそらく1億5千万くらいである。残りの5千万円の部分はJAから買わせていただくことになる。その部分の集荷をするのかどうかについては、その後の検討になる。ちなみに、集荷のシステムをつくっている所はあるが、恐らく通常の手数料に加えて5%から10%の上乗せをしていると思う。

市長：折込チラシでの周知については、費用をかけるだけの効果があるのか。

事務局：市民への周知方法として、時間はかかるが区長に回覧してもらう方法もある。

市長：それなら費用が安く済む。区長がすぐに回覧してくれれば良いが。

委員：農水産課では窓口に来たお客に、道の駅出荷の案内をし、断られた方には理由を聞き取りしている。その中で、出荷の方法や決まりがよく分からないという意見がある。

また、ポスターの掲示や関係者への通知、団体の集まりの際にはお知らせする等している。

事務局：認定農業者である850名への通知については予算立てが出来たので早速、実施する。

※事務局より説明

・一般加工品出荷者説明会資料について説明

→7/16(水)14:00～、7/17(木)18:00～、会場：旭市商工会館にて開催

各委員からの意見

市長：説明会は商工会のみの開催か。

事務局：そうである。主に商業者が対象になるので、商工会で二日間、時間をずらして開催する。

(3) ユーザーズクラブの検討について

※アドバイザーより説明

・ユーザーズクラブの原案について説明

→組織の概要、今後のスケジュール、設置要綱(案)、募集要項(案)

各委員からの意見

市長：道の駅の開設前から、このユーザーズクラブが本当に必要かどうか疑問である。建設準備委員会で意見を出してもらっているなかで、更に30名から成るユーザーズクラブを組織するとなると、様々な意見、要望が出てくるのではないかと。事務局は他の準備等で忙しいなかで、それらを捌ききれぬのか。応援団体は道の駅がオープンしてから募った方が良いのではないかと。

アドバイザー：確かにユーザーズクラブのような応援団体は、現段階での緊急度としてはそれほど高くはない。しかし、今後の長い期間、道の駅を旭市のシンボリックな存在にしていく意味での重要度は高いので、できるだけ早期に組織した方が良い。ただ、事務処理的な部分等を考慮して、実際に今の段階で組織するかどうかは慎重に検討した方が良い。

委員：ユーザーズクラブ設立の提案をしたが、このようにしっかりとした設置要綱(案)が出来てきて驚いている。確かに今の段階でこれだけの人数を集めて組織するのは早い気がする。設置要綱(案)の役割に、道の駅の魅力をPRすることとあるが、これは自分が考えていた事とは違い、出荷者等で組織する道の駅のサポーター的な意味になっている。そうではなく、消費者の立場から道の駅の発展に協力するような団体にしてもらいたい。設立の時期としては、建物が完成してからが良いのではないかと。

委員長：東金のみよりの郷ではオープンの時に大勢のボランティアが手伝っていた。

委員：役割をあまり明確にしてしまうと入り難い印象がある。

委員：私は、早く設立して意識を高めていった方が良いと思う。道の駅の設立に参加することに意味があると思う。

市長：しかし、現段階の一番の課題は出荷者を集めることである。そこに力を入れるべきである。

委員長：少なくとも半年くらいは募集を遅らせてもいいと思うがいかがか。

委員：募集時期は急がなくて良いが、構想の議論はしていった方が良いのではないか。

委員長：募集時期は先送りし、構想については継続して議論していくことでいかがか。

各委員：特に意見なし

(4) その他

・テナントの募集方法の方向性について

→テナントについてパン工房とアイス工房については、市内から一般公募を行う方向で進めたい。テイクアウトコーナーについても一般公募を行うが、品目を指定しないので相当数の応募が想定される。まずは書類審査で絞り、その後、プレゼンを実施する等したい。テナントの賃貸料についても次回の委員会で検討したい。

各委員からの意見

委員長：テナントの賃貸料については、しっかりと精査してもらいたい。

市長：旭農業高校の生徒がパンを作っている。市内に公募をして決まらない場合は、市外から選定する前に検討してもらいたい。学生ということで厳しいかもしれないが、情報は集めてもらいたい。

・建設工事に関わる今後のスケジュールについて報告

→開発協議の許可、建築確認の許可が下りた。今後は造成工事に入っていく。

閉会 17:20